

### 【今日の説教から】

「わたしは、実はヘブルびとの地からさらわれてきた者です。またここでもわたしは地下の獄屋に入れられるような事はしなかったのです」。

切実なヨセフの叫びです。兄弟たちの仕打ちにより穴に落とされ、奴隷商人に売り飛ばされ、ポテパルのもとで成功しかかったのもつかの間、えん罪でまたも地下の獄屋へ、低い低い穴倉にまたも転落させられるとは。どうしてかくも悲運が続くのか。もがくような苦労の末のせっかくの救いの糸口は、どうしてかくももろく自らのもとから取り去られていくのか。穴へ穴へ、低きへ低きへ、絶望へと、数奇なる彼の人生はどうしてかくもうまくいかないのでしょうか。故郷の優しいお父さんの姿を思い出して彼は幾度牢の中で涙したのでしょうか。

しかし彼は王の囚人をつなぐ獄屋で、王の高官たちと話し、彼の将来の準備をここで、彼の屈辱の牢の中で得ることになります。その牢の中で、ヨセフは二人の人から夢の話聞きます。そして彼は言いました。「解くことは神によるものではありませんか。どうぞ、わたしに話してください」

いみじくも彼が言った言葉、「解くことは神によるものではありませんか」という言葉の通りに彼の人生も導かれて行きます。私たちにはわからない謎が多いのですが、解き明かすのは私たち人間がするのではなく、神様のなさることです。神様は全てのことを相働かせ最善になさるお方です。

皆様おはようございます。3月に入り、ようやく暖かさを感じられるようになりました。週半ばまでは雨が続き、週末には少し寒さが戻るようですが、これまでの寒さとは比べ物にならないものと思います。今日は16度まで気温が上がるみたいですね。気候の変わり目、冬の寒さに耐える疲れがどっと出てくる時かもしれません。花粉に悩まされる時かもしれません。どうぞ皆様引き続きご自愛ください。

さて今日は創世記40章が開かれております。ヨセフの物語が続いております。

兄弟たちに捨てられ、奴隷商人に拾われ売り飛ばされ、パロの役人で侍衛長であったエジプトびとポテパルのもと頭角を現しつつあるのもつかの間、えん罪で投獄されてしまいます。そしてその牢屋は、今日の聖書の箇所によれば「地下の獄屋」であったとのこと。また低き所に。せっかくつかみかけた泥沼から這い上がるチャンスを失ってまた深き所に蹴り入れられるとは、彼はどんなにか深い落胆の底にいたのでしょうか。

40:15 わたしは、実はヘブルびとの地からさらわれてきた者です。またここでもわたしは地下の獄屋に入れられるような事はしなかったのです」。

彼の失望と落胆はどれくらいのものであったのでしょうか。私たちは今日開かれた聖書の箇所を読み進めてまいりましょう。

40:1 これらの事後、エジプト王の給仕役と料理役とがその主君エジプト王に罪を犯した。  
40:2 パロはふたりの役人、すなわち給仕役の長と料理役の長に向かって憤り、  
40:3 侍衛長の家の監禁所、すなわちヨセフがつながれている獄屋に入れた。  
40:4 侍衛長はヨセフに命じて彼らと共におらせたので、ヨセフは彼らに仕えた。こうして彼らは監禁所で幾日かを過ごした。

ヨセフの再びの転落。しかしそこは王の囚人をつなぐ獄屋でした。そこでも神様はヨセフを憐れまれ、彼と共に、そば近くにおられ、彼に代わることのないご愛顧と恵みと神様のご真実を現してくださいました。

39:21 主はヨセフと共におられて彼にいつくしみを垂れ、獄屋番の恵みをうけさせられた。  
39:22 獄屋番は獄屋におるすべての囚人をヨセフの手にゆだねたので、彼はそこでするすべての事をおこなった。  
39:23 獄屋番は彼の手にゆだねた事はいっさい顧みなかった。主がヨセフと共におられたからである。主は彼のなす事を栄えさせられた。

そして彼はエジプトの王パロの高官たちから聞き学ぶ機会を得、それは彼のこれからの活躍へとつながっていくのです。言葉も文化も分からなかった、右も左も分からなかった彼が、段階的に多くのことを学び取っていきました。これは神様の御いつくしみという他ありません。奴隷として売られてのポテパルの館、そしてまたも辛いことによりえん罪にて転落したこの地下の獄屋が彼のための教室、神様の学校であったことをどうして彼が知ることが出来たのでしょうか。

マタイ 6:25 それだから、あなたがたに言うておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考え

で見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほども着飾ってはいなかった。

6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

40:4 侍衛長はヨセフに命じて彼らと共におらせたので、ヨセフは彼らに仕えた。こうして彼らは監禁所で幾日かを過ごした。

40:5 さて獄屋につながれたエジプト王の給仕役と料理役のふたりは一夜のうちにそれぞれ意味のある夢を見た。

40:6 ヨセフが朝、彼らのところへ行ってみると、彼らは悲しみに沈んでいた。

40:7 そこでヨセフは自分と一緒に主人の家の監禁所にいるパロの役人たちに尋ねて言った、「どうして、きょう、あなたがたの顔色が悪いのですか」。

40:8 彼らは言った、「わたしたちは夢を見ましたが、解いてくれる者がいません」。ヨセフは彼らに言った、「解くことは神によるものではありませんか。どうぞ、わたしに話してください」。

ヨセフは侍従長の命令により、王の怒りを買って投獄された給仕役と料理役の二人に仕えることになりました。そして幾日かを過ごして後、ある夜に二人が見たそれぞれ夢を見たという話を聞くのです。

「わたしたちは夢を見ましたが、解いてくれる者がいません」という彼らにヨセフは言いました。

「解くことは神によるものではありませんか。どうぞ、わたしに話してください」。

彼は自分の力で夢の時証しをするものではありませんでした。ヨセフもまたかつて夢を見て家族に話したように、夢において語られるのも神様、そしてその意味を解き明かすのも神様のなさることです。ヨセフは自分の信じる神様を信じ続けていました。神様は、私たちが知

ることのできることをはるかに超えてすべてを知っておられ、不思議なご自分の業をなさるお方であるとの信仰が彼にはありました。

40:9 給仕役の長はその夢をヨセフに話して言った、「わたしが見た夢で、わたしの前に一本のぶどうの木がありました。

40:10 そのぶどうの木に三つの枝があって、芽を出し、花が咲き、ぶどうのふさが熟しました。

40:11 時にわたしの手に、パロの杯があって、わたしはそのぶどうを取り、それをパロの杯にしぼり、その杯をパロの手にささげました」。

40:12 ヨセフは言った、「その解き明かしはこうです。三つの枝は三日です。

40:13 今から三日のうちにパロはあなたの頭を上げて、あなたを元の役目に返すでしょう。あなたはさきに給仕役だった時にされたように、パロの手に杯をささげられるでしょう。

それは彼の良い幸先を現す夢、神様が彼に示された夢でした。これを説明してからヨセフはすかさず給仕役に頼みました。

40:14 それで、あなたがしあわせになられたら、わたしを覚えていて、どうかわたしに恵みを施し、わたしの事をパロに話して、この家からわたしを出してください。

40:15 わたしは、実はヘブルびとの地からさらわれてきた者です。またここでもわたしは地下の獄屋に入れられるような事はしなかったのです」。

「わたしは、実はヘブルびとの地からさらわれてきた者です。またここでもわたしは地下の獄屋に入れられるような事はしなかったのです」との彼の告白には胸を打つものがあります。いつも救いの望みを待ち望み、ちょっとしたわずかなチャンスに対して、目を皿のようにして待っていました。今、この給仕役がエジプトの王の前にまた仕官することを神様によって知らされたヨセフは、給仕役のとりなしを得てこの地下の牢獄から救われるように助けてほしいと頼みます。そして言うのです。「わたしは、実はヘブルびとの地からさらわれてきた者です。またここでもわたしは地下の獄屋に入れられるような事はしなかったのです」と。

ヨセフはさらわれ、売られ、またこのエジプトに来てからも、なにも責められるようなことはしていない、それなのに故無く私はここに捕らえられている、どうか正しい、正当なさばきがなされるように、こんな不条理なことはないのです、あなたも悪いことをしていないのにここに入れられたのでしょうか、だから神様はあなたをここから出してください。どうかその時、あなたの冤罪の疑いが取り去られ、あなたが幸せの中にいる時に、あなたと

じ思いで苦しんでいる私を思い出してくださいとヨセフは懇願したのです。

故もない苦しみ。不条理。えん罪。誤解。責められるはずもないのに。一生懸命に頑張ってきたのに。しかし転落の人生を送る。これはなんという苦しみでしょうか。しかし私たちはここにも私たちの主イエス様のお姿を見るのです。

イザヤ 53:1 だれがわれわれの聞いたことを／信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。

53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

53:8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼はわが民のとがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。

53:9 彼は暴虐を行わず、その口には偽りがなかったけれども、その墓は悪しき者と共に設けられ、その塚は悪をなす者と共にあった。

53:10 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。

53:11 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。

53:12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に／物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。

ピリピ 2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

2:3 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

このヨセフの不条理の苦しみが、やがて多くの人たちの救いへとつながります。このイエス様のお苦しみが、世界のすべての人の救いへとつながるのです。

40:21 すなわちパロは給仕役の長を給仕役の職に返したので、彼はパロの手に杯をささげた。

40:22 しかしパロは料理役の長を木に掛けた。ヨセフが彼らに解き明かしたとおりにである。

40:23 ところが、給仕役の長はヨセフを思い出さず、忘れてしまった。

ヨセフの苦しみはまだ続きますが、時は日々近づいています。彼にとっての、「わたしは、実はヘブルびとの地からさらわれてきた者です。またここでもわたしは地下の獄屋に入れられるような事はしなかったのです」との悲痛の叫びは、人生の苦悩と謎と不条理の難問は、もうすぐに解かれようとしています。

いみじくも彼が言ったとおりにです。

40:8 彼らは言った、「わたしたちは夢を見ましたが、解いてくれる者がいません」。ヨセフは彼らに言った、「解くことは神によるものではありませんか。どうぞ、わたしに話してください」

さい」。

人生の謎、困難、不条理、故なき苦しみ、どうしてという疑問、なぜという叫び、怒りと涙、考えても悩んでも理解できない、解決できない困難。しかしこれらは私たちが解き明かすのではなくて、解くことは神によるのです。私たちもまた、人生の牢獄のようなその場所が、神様の教室であり学校であることを信じて、不安がることなく、失望することなく、絶望することなく、ここで私は学ばせていただいているのだという信仰をもって、主の憐れみと恵みとを信じて、主の導いておられる明日へと大胆に進んでいこうではありませんか。

マタイ 6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで十分である。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

「牢屋に入れられるようなことは何もしていないのです」との彼の悲痛の叫びが胸を打ちます。兄弟たちのもとでも、ポティファルの館でも。それなのにどうして私はいつも低き所に落とされるのか。イエス様のお悲しみを思います。不条理の苦しみを味わいつくされ、十字架につかれたイエス様の、私たちのためのお辛さを思います。「解き明かしは神がなさること」謎も悩みも不条理も、受け入れられないと怒り涙したことも、神様は解き明かしてください。そして最善へと導いてくださると信じます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン